

謹賀新年



國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

関西防衛を支える会
(略称・関防会)
〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心斎橋太陽ビル7階
TEL 06-6241-1124
発行人 瀨野晃吉
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第29号
(新年号)
平成19年1月1日(月)
(皇紀2667年)
(大正紀元96年)
(昭和紀元82年)

年頭所感

新年明けましておめでとうございます。昨年は高橋季義前会長が亡くなられたという大変悲しい年でした。高橋前会長は人間として、経営者として、日本人としても偉大な人であったと思います。われわれはその遺志を継いで会員全員が協力し合い日本真正のためにしっかりと頑張りたいと思

修学旅行は我が国の聖地鹿屋・知覧へ

その高橋前会長と昨年はじめ一月二十九日に取り組んだのが皇室典範改悪反対大会の開催でありました。西宮の会場にあふれんばかりの参加者が集まり、万世の皇統を守る熱気に包まれました。その思いが天に通じ、二月七日、秋篠宮妃殿下のご懐妊が発表され、九月六日、悠仁親王殿下が誕生されました。本



会長 瀨野 晃吉

この藤井少佐の遺書は靖国神社の遊就館に展示されており、心から祝いたいことです。昨年九月、「鹿屋・知覧鎮魂の旅」を主催し、各地の慰霊碑と先人の足跡を拝見して参りました。そして拒否され続け、ついには自身の血書嘆願を出してようやく受理されたのです。夫の強い決意を知った福子夫人は「貴男の気持ちはよく解っています。私達は先

この藤井少佐の遺書は靖国神社の遊就館に展示されており、心から祝いたいことです。昨年九月、「鹿屋・知覧鎮魂の旅」を主催し、各地の慰霊碑と先人の足跡を拝見して参りました。そして拒否され続け、ついには自身の血書嘆願を出してようやく受理されたのです。夫の強い決意を知った福子夫人は「貴男の気持ちはよく解っています。私達は先



自衛隊大阪地方協力本部長 補 河村 仁

●新年の御挨拶 国防の任務を全う

関西防衛を支える会の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族ともども輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、皆様方から格別のご支援・ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。私は八月四日付けの異動で、自衛隊大阪地方協力本部長を拝命しました河村仁でございます。活気に満ち人情味あふれる関西の皆様方とお会い出来る機会を与えられたことは、この上ない大きな喜びであり、大変光栄に存じております。

実・強化し、国際社会の平和と安定に積極的に取り組んでいくこととなります。大阪地方協力本部も、これまで親しまれてきた大阪地方連絡部から名称が変更となり、災害対策、国民保護など地方公共団体との協力関係をさらに構築していくための機能が追加され、今まで以上に防衛機能を果たし得る体制が整備されました。大阪地方協力本部といたしましては、高まる皆様の期待にしっかりと応えられるよう、国防という崇高な任

法改正は、本物の日本人を育てたいという思いでやっているのだから、安倍政権がよい方向に進むようにしっかりと支援していくつもりであります。第三に、昨年は「防衛」が「省」に昇格した事です。自民党、公明党に加え民主

「日本人は日本の心を失っている。今こそ本物の日本人を作っていくかばならない」と常に言われていました。高橋前会長が提唱された歌唱祭も「本物の日本人の心は歌にある、日本の歌で大和心を再生しよう」という気持ちの現れであります。本年三月十一日の歌唱祭は何としても成功させたいと思っております。皆様の御協力をお願いいたします。この年頭にあたり会員各位の御健勝と御多幸を心から祈念申し上げます。

果と思いを大いに分かち合いながら、温かいご懇親の絆を一層深められますよう、ご盛会を心より願っております。皆様には本年も大変お世話になりましたことを心より申し上げております。

第四十九回理事会並びに年末懇親会のご開催、誠にありがとうございました。本日は私も是非、一緒にさせていただきます。公務日程と重なりど

貴会の発展を祈念します
衆議院議員 内閣府特命担当大臣 高市 早苗

故・高橋季義前会長追悼
第2回 日本の詩情・熱血歌唱祭

平成19年3月11日(日曜日)
開場 12:00(開演13:00~15:30)
会場 兵庫県立芸術文化センター

入場無料 先着2000名

〒663-8204 西宮市高松町2番22号

☎0798-68-0288 阪急電車・西宮北口駅南出口すぐ

(梅田駅から特急で10分)

演奏
陸上自衛隊中部方面音楽隊
君が代・海ゆかば・抜刀隊・軍艦行進曲・出征兵士を送る歌・父よあなたは強かった・他
婦人部コーラス
茶摘み・夏は来ぬ・愛国の花・里の秋・他
男性ソロ
青葉の笛・児島高德・アツツ島血戦勇士・他

第9回定時総会の御案内
期日 平成19年5月26日
時間 午後4時30分
会場 ラマダホテル(旧東洋ホテル)
(大阪・地下鉄中津駅下車)
講師 元海上幕僚長 古庄幸一氏

国防を考え、意見を述べる者には、その資格が必要であるという。たとえば、軍事について知識がなくてはならないといわれる。

なるほどそれはその通りである。早い話が、核爆弾のことについて何も知らない者が、核の議論をしても、机上の空論となるだけのことだ。ただ単に反対とか賛成とかと言ってもほとんど説得力がない。

となると、軍事の素人は引っこんでいくということになりそうだが、果してそうなのであるか。

たとえば、北朝鮮が核爆発実験をしたときのことである。多くのメディアが、いくら実験に成功しても、それを搭載できるミサイルは北朝鮮においてはまだ開発されていないから大丈夫だと説明していた。テレビ番組に出演していたコメントーターとやらも異口同音にそう述べていた。というわけで、日本国中が安心モードとなっていました。軍事や外交の専門家がそう言うんだから、素人のわれわれはそれを信じていいと思っ

しかし、本当にそう思っているのだろうか。私など軍事の素人ゆえに、専門家の意見にかえって疑問を抱く。

なぜなら、次のような仮定を立てることができからだ。すなわち、軍事専門家は素人だから、戦争といえど、すぐ現代の戦争を想定する。すると、核弾頭ミサイルがあるのか、ないのかという話になっ

てしまう。しかし、それは正規軍同士の話にすぎない。もし正規軍が最も苦手なゲリラだったら、ミサイルなんかなくても、核を相手国に撃ちこめるのだ。

その方法は、こうである。私は核実験装置がどのようなものであるのかわからないが、実験データを集めることをやめ、ただ爆発させることだけの装置なら、かなり単純化できるはず。もちろん核放射の抑止を含めて一切の安全装置などは不要とする。そういう身軽な核実験装置なら一隻の船の中に設置することができ

はずだ。つまり、ボタン一つ押せば、船ごと核爆弾となるわけである。

軍事と平和と

大阪大学名誉教授 加地 伸行



だ。やがて船を港に横づけし、乗組員を降ろそうとする。日本がいやだといくと、向こうは核を爆発させることを嫌うだろう。やむなく下船を許す。そして船中には数人が残り、ボタンの前に座っているだろう。もちろん、その数人は自爆する決心だ。

そう言ったとき、日本政府はどうする。特殊部隊を潜入させ制圧しようとするか、彼らは核のボタンを押してしまおうから、日本政府はなんにもできない。おろろろするだけだろう。

これは、相手の日本に対する宣戦布告に等しい。しかし、一発の銃弾もたがいに撃ちあっていない。

なんだか映画かマンガの世界みたいであるが、こうした意表を突く作戦行動がゲリラなのである。いくら迎撃ミサイルを備えたとしても東京湾に入港した普通船一隻にも対抗できない。ゲリラの発想や行動に対しては、現代正規軍は術がないと言っても過言でない。ベトナムにおける米軍、アフガニスタンにおけるソ連軍、そしていまイラクにおける米軍と、歴史はそれを教えている。

ということは、現代の日本にとって危険な国家である北朝鮮に対する軍事上の議論は、ゲリラを想定してのものである、かなり重要であるということだ。

幸いというべきか、我が国はゲリラ戦に適さない国土である。というのは、ゲリラといえども自分たちだけで戦えるわけではない。一般人の協力があってはじめて可能なのである。けれども、現代の日本は、法秩序を重んずる安定国家であるから、その国家に反逆し、自前のアイデアオロギーに基づく別の国家を作らねばならないような理由が、まずない。そういう国土において、その政府を倒そうとする外国ゲリラを支援する可能性はない。

しかし、前述のような核実験装置搭載普通船のようなものがゲリラ的に我が国をおびやかす可能性はゼロではない。生物化学兵器の使用も同様である。



北朝鮮人権週間最後の行事（12月16日）全世界50ヵ所で活動を実施した。大阪は久宝寺公園から高島屋まで御堂筋行進した。200名参加し、有本恵子さんのお父さんと並んで行進する濱野会長夫妻 H.18.12.16



海上自衛隊 阪神基地 餅つき大会

恒例の阪神基地の餅つき大会が旧臘12月2日開かれ、濱野会長他多数の出席者があり盛会裡に行われた。写真は左端・米国DANIEL RUSSEL総領事、中央の座った人・田崎真珠社長、右から濱野会長、前田事務局長、阪神基地・志賀洋介司令

関西防衛を支える会の皆様、新年あけましておめでとございます。

先般、防衛庁が省に昇格することが国において決定されました。戦後六十年を経過し、国防の根幹部分を米国に依存したまま今日まで経過してきたわけであり

欺瞞に満ちた 戦後体制の脱却を

特定失踪者問題調査会理事 北朝鮮に拉致された日本人を奪還する地方議員の会 副会長 八尾市議会議員

三宅 博

型の体制とは程遠く、米国の国防体制のアジアにおける補完的存在であつたわけである。安全保障に関する情報の収集・分析及び国防計画の企画立案に対しても常に米国の世界戦略の中における部分的役割を担って維持しつづけることには不

らしてきたといえる。うにも思われる。過去の世に能するはずのない米国の核の傘に依存し、そしてその用心棒代として巨額の富を彼らに吸い続けられる。なかつ我が国の法制度や国家システム並びに日本独自の文化さえ米国の要求によって変えていくような現在



きたと言つても過言ではない。しかしながら、もうい加減、米国に対して「強い日本」の存在こそがアジアの安定をもたらす、米国の長期的利益にも合致することを知らしめなければならぬと思う。米国は今ま

可能であることを彼ら自身に悟りつつあるのではないかと。特に、九・一一ニューヨーク爆破テロや対イラク戦の混迷を眺めると、遠からず彼らは超大国としての自信を喪失し、あらゆる部分で内向きに転じてくるよ

今はじき高橋会長も、それらに対する強い思いをもち続けることに、日本のアイデンティティの回復と本来の姿を取り戻した日本こそが、他のどの国よりも世界平和に貢献することができ資格と能力を持った国であることを信じておられました。

最後に高橋会長、我々はあなたの死を決して無駄にはいたしません。 合掌

